Tokyo Center for Dementia Care Research and Practices
社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター

令和5年度
研究事業概要

令和5年度 認知症介護研究・研修東京センター 運営費研究
「Web環境を活用した認知症地域支援推進員の活動環境の整備及び活動支援に関する研究事業」

推進員同士で語りあおう！つながりあって、仲間を増やそう！

目 的

認知症地域支援推進員（以下、推進員とする。）の活躍の機会が年々広がってきている、一方で、何役も兼務して忙し過ぎる、基本法が施行され推進員の役割がさらに広がりそうだが他地域ではどのように活動しているのか知りたい、研修の時だけではなく普段もっと他の推進員と話しあいたい等、他地域の推進員との本音の情報交換を求める声が多数あがっている。推進員活動の日常的な質向上を促進するために、推進員が抱いている課題をもとに、オンラインを活用したライブ「すいしんいんセッション」を開催し、推進員同士が相互相談支援を行うネットワークを整備・自主的活動を推進していくことを目的とした。

概 要

主な事業内容

1.当センター主催の推進員研修時のアンケート結果等をもとに、活動上の課題の集約・分析を行った。
2.推進員の全国自主組織認知症地域支援推進員連絡会（すいしんいんネット）の事務局メンバーとともに①も参考にしながら、すいしんいんセッションの企画（ねらい、テーマ、構成、内容、報告者等）を検討。
3.都道府県・市町村を通じて全国の推進員に参加を呼びかけ、事前に質問と発信したい情報提供を依頼。
4.セッション当日は課題解消に向けた活動を実践している推進員による報告、ライブでの質疑応答と討議。
5.ライブ終了直後に、オンラインで参加者にアンケート調査を実施した。
6.参加者から寄せられた全質問に関して、報告者に回答と情報提供を依頼。Q&A表に集約・整理した。
7.当日の報告資料及び動画（報告部分）、Q&A表、報告者提供の関連資料をDCnetに掲載した。

主な事業結果・成果

1.推進員活動上の課題は多岐に渡っており、右表のA～Eの5項目に分類・整理された。「D. 推進員活動の進め方や内容」に関して本人ミーティングやチームオレンジ等の個別事業の進め方の課題が多数みられたが、その背景として、A、B,Cの課題が潜在しており、配置自治体の方針、活動体制、担当者との協働が不十分な中で、部分的な作業に追われ、悩み・疲弊している問題が示唆された。

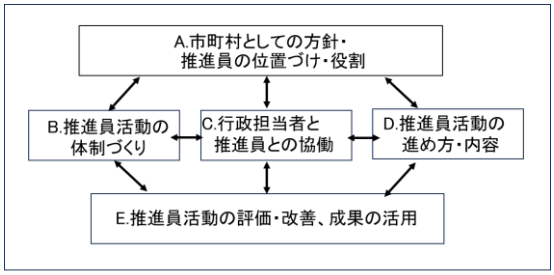

図 推進員活動上の課題

2. すいしんいんセッションでは、推進員の立場やキャリアに関わらず、推進員が自ら課題を解消していくための発想や手がかりをつかめるように、以下の3点をテーマに推進員による実践報告とQ&Aを行う企画とした。
①地域共生の実現に向けて「本人起点で本人とともに取組む」推進員としての活動方針を明確にもてること。
②方針に基づくことで、日常業務の中で本人とともに、地域の多様な資源とつながりながらの実践が展開していく流れと可能性を知ることができること。
③推進員個々の活動の歩みを可視化していくことで、各自なりの成果と課題が浮き彫りになり、行政担当者や関係者との対話と共有、その後の協働の具体的進展につながることを知ることができること。
④成果を生み出している推進員もその途上で試行錯誤の連続であり、具体情報が必要な時や悩んだ時等に自治体内・圏域・全国の推進員と連絡をとり相談しながら推進員同士のネットワークを育てる大切さを知る。
3. すいしんいんセッションを2024年2月26日15～17時に開催（zoom）。1回線からの複数参加も少なくなく、約700名が参加。配置形態及び地域特性の異なる5名の推進員が実践報告を行い、切実な悩みも含めて12の質問が寄せられた。体制や運営上の課題解消、本人支援の工夫等、具体的な質疑応答・討議が行われた。
4. 参加者アンケート結果では、「（非常に）参考になった」46.6%、「参考になった」52.9%であり、「同じような悩みを抱えながら取組んでいる報告に勇気をもらった」、「たくさんのヒントを得た」、「日常業務の中から、推進員だからこその活動をしていけることがわかった」、「行政と話しあいたい」等、前向きな意見が多数寄せられた。

＜まとめ＞ オンラインを活用して推進員が気軽に報告や質疑応答、討議できる機会は有効であり、今後、全国規模、圏域単位で継続的に実施していく仕組み作り、タイムリーな推進員相互の相談支援体制づくりが必要。推進員活動の課題解消には行政担当者との協働が不可欠であり、研修や会議以外に推進員と担当者との合同セッション等の機会づくりも必要。

事業の成果物は、DCネットから　すいしんいんセッション　検索